



移動動物園でモルモットと触れ合う子どもたち

遊びと体験で元気に育って 「子どもフェスティバル」

「子どもたちの元気が、内子町の元気」を合言葉に、「第15回子どもフェスティバル」(同実行委員会主催)が5月17日、内子運動公園総合グラウンドで開かれ、親子連れなど約2,100人が集まりました。消防や警察など55団体が協力し、趣向を凝らした体験コーナーなどを設置。移動動物園や理科教員の「楽しい科学遊び」など、子どもたちは自由に遊びながら、学びや交流を楽しみました。



凧踊りのいでたちで凧の自慢をする松田光博さん

わがまち自慢は魅力がぎっしり 「ふるさと自慢うた自慢」公開収録

NHKの番組「ふるさと自慢うた自慢」の公開収録が5月16日、内子町文化交流センタースパルで行われました。内子町から9人が出演し、内子の魅力と歌声を全国に発信。ゲスト歌手の冠二郎さんと水森かおりさんの歌謡ショーも行われ、プロの歌声に大きな拍手が起こっていました。この模様は6月7日(土)午後3時5分から、総合テレビで放送(愛媛県のみ)される予定です。



苗を丁寧に手植えする大学生たち

美しい棚田でおいしい米を育てよう 泉谷棚田オーナーの田植え

泉谷地区棚田を守る会(上岡満榮会長)は、農業体験を通して都市の人と交流し、地域の活性化を図ろうと、平成16年度から棚田オーナー制度を導入しています。

今年もオーナーによる田植えが5月18日に行われ、9組33人が参加しました。愛媛大学の仲間4人と参加した福井亮陽さんは「田んぼの土の感触は初めて。気持ち良くて楽しいけど、腰は痛いですね」と笑っていました。



初舞台で「絵日傘」を披露した清水こゆきちゃん(4つ)

日頃の練習成果を内子座の舞台で 内子町文化協会内子支部合同芸能発表会

内子町文化協会内子支部(谷野文子支部長)は5月18日、内子座で合同芸能発表会を開きました。町内で活動している21団体・約240人が出演し、太鼓や舞踊などさまざまな演技を披露しました。谷野支部長は「会場の準備や素晴らしい演技などで発表会を支える皆さんに、感謝の気持ちでいっぱい。若い人たちの発表の場にもなっているので、多くの人に見てほしい」と話しました。

五十崎の大凧・出世凧 若葉風に乗って高々と

400年の歴史を誇る「いかざき大凧合戦」(同実行委員会主催、久保美博実行委員長)が5月5日、豊秋河原で行われました。早朝から降っていた雨は午前中に上がり、大勢の参加者と観客でにぎわいました。

大凧合戦は、凧糸に「ガガリ」と呼ばれる刃物を仕込み、凧を巧みに操ることで相手の糸を切り、凧を落とす戦い。今年は91チーム、約350人の参加があり、熱戦が繰り広げられました。弱い風の中、凧を揚げようと必死に走る参加者。ガガリを相手の凧糸に引っ掛けると、切り落とすためにさらに加速します。威勢のいい姿に、約1万5,000人の観客から声援が送られました。

こどもの日に合わせて行われる初節句神事には、182組(うち、町内73組)の家族が参加しました。稲本隆壽町長は「たくさん子どもたちに会えてうれしい。子どもは将来の地域や国の担い手。愛情たっぷりに育ててください」とあいさつ。神事や記念撮影の後、出世凧揚げが行われ、子どもたちの健やかな成長を願いました。

この他にも少年剣道大会、伝統の凧踊り、100畳大凧揚げ、大凧出世太鼓の演奏、凧絵や俳句を募集した「第8回五十崎の空に凧が舞う」の表彰式などが行われました。

久保実行委員長は「大勢のお客さんに喜んでもらって良かった。朝からの雨で大変だったが、この伝統行事が多くの人に支えられていることを改めて実感した。雨の中、準備をした実行委員会・参加団体の皆さん、来てくれた観客の皆さんに感謝したい」とお礼の気持ちを述べました。



1_4統の出世凧が一斉に空に舞うと、観客から喜びの声が上がった 2_内子町共生館で行われた初節句神事。参加者に御神酒や厄よけのショウブが贈られた 3_雲を裂くように上がる91統の凧。どの凧に勝負を仕掛けるか、様子をうかがう参加者 4_迫力の100畳大凧揚げ

往時の風景に思いをはせて 清らかな川面で筏流し

昭和20年ごろまで盛んに行われていた筏流しの風景を再現した「第24回川まつり・筏流し」(川登自治会主催、谷岡進会長)が4月27日、川登地区で開かれました。

当日は天候に恵まれ、大勢の観客やカメラ愛好家たちが来場。川面を滑るように流れる筏を眺めながら、春の小田川の風景を楽しみました。谷岡会長は「カワツツジやフジが見頃で良かった。水量もちょうど良く、川登地区の美しさを満喫できたのでは」と満足そうでした。



巧みなさおさばぎで急流を下る